

群馬板金広場

(群馬県シートメタル工業会会報)

vol.16

2008年8月発行

GUNMA SHEET METAL PLAZA

G S M P

群馬県シートメタル工業会

<http://www.gsmpl.gr.jp>

発行人

岡部 浩章

発行

群馬県シートメタル工業会事務局

〒370-0801

群馬県高崎市上並榎町342

TEL 027-362-3500

FAX 027-361-3066



ごあいさつ

人材育成事業を充実

群馬県シートメタル工業会

会長 岩本 博

(株式会社 太田治工)

群馬県内館林市では、今年3回目の気温35度を越える日がありました。どこまでこの異常気象が続くのか、思いやられます。

おかげさまで持ちまして6月5日に開催されました定期総会も、皆様のご協力を頂きまして盛況のうちに終了致しました事をご報告申し上げます。平成19年度はサブプライム住宅ローン問題、原油価格の高騰、改正建築基準法の施行による建築着工件数の減少、それと原材料の値上げ等収益を圧迫される要因に囲まれております。コスト上昇分の製品価格転嫁が非常に困難で、私達中小企業者は生産性の向上が不可欠であります。

また、私達シートメタル工業会が最重要課題として取り組んでおります人材の育成は生産性を高め、高度な品質を維持する為に必要不可欠であります。

平成11年当工業会が発足以来、人材育成事業に板金加工通信講座、技能士の養成、会員企業のホームページの

作成、工業会会報の発行と全国の工業会に先駆けて役員、事務局の御協力により実施して参りました。平成18年発足した全国工業会代表者会議が正副会長会という新しい枠組みとなり、全国の工業会の交流を促進し、各工業会の活性化に役立つものと考えています。先日の総会でお話し致しました、板金図面技能検定試験制度は福岡県工業会が多年に亘り研究され、完成された制度であります。公認の制度ではありませんが、私達是他工業会に先駆けチャレンジしたいものです。そして全国工業会で制度化して国で認定されるよう定義したいと考えています。会員の皆様の多数参加をお願い致します。

ホームページについて、工業会ホームページが開設以来6,040人の訪問を頂いております。会員52社中、独自のHPをお持ちの29社を除き、23社のHPは内容の濃いものにすべく、写真の追加、特徴、特技のPR等を充実すれば更に質の向上が図られます。早い時期にリニューアルを考えております。事務局、役員が写真撮影、取材に参りますので御協力の程お願い致します。

また、平成20年6月25日岩手県シートメタル工業会が設立されました。26社で運営されます。

追記 群馬県シートメタル工業会設立以来、役員として永年に亘り工業会発展の為、御尽力くださった須田副会長のご逝去を悼み心からご冥福をお祈り申し上げます。



「技術の連携」で「仕事の誘致」を

群馬県工業振興課長

中山 勝文

群馬県は、製造業を基幹産業とする「ものづくり立県」であり、長い年月を通じて蓄積され、受け継がれてきた高い技術力が、本県経済を支えています。

本県経済を更に発展させるため工業振興課では、技術振興を基本に据えた「ものづくり振興」をより一層進めており具体的には、「仕事の誘致」に積極的に取り組んでまいります。本年度は、県内企業の優れた技術力や製品を積極的にPRするため、トヨタ自動車(株)本社での展示商談会の開催をするほか、見本市・展示会等の出展の支援、受発注情報の収集・提供と取引の斡旋、県内中小企業向けの商談会等を開催することにより受注開拓や販路拡大に取り組めます。

また、「仕事の誘致」を実現していくには、企業の技術力を高めていくことが不可欠です。群馬県には、高い

技術力を有するものづくり企業が多くありますが、競争力を維持し、発展していくためには、各企業が有する技術の高度化と新たな技術分野への挑戦が必要です。県では、大学、民間企業、試験研究機関等との間で「技術の連携」を深め、様々な分野における知と技術の融合によりこれらの課題に取り組んでいます。具体的には、産と学の橋渡しや県・大学・企業等の研究開発部門間等で連携を図り、技術支援、人材育成、研究開発等の分野の支援体制を強化してまいります。

ものづくりの現場は、現在、石油価格の高騰、素材価格の上昇の影響により大変厳しい状況にありますが、一方で、ものづくりには、喜びや面白さがあります。自分が楽しく仕事をする事ができなければ、従業員に喜びや面白さを伝えることはできませんし、まして新たにものづくりに携わる人も生まれません。会員企業の皆様におかれましては、色々ご苦労があるかと思いますが、自分が楽しく仕事をするとともに楽しくものづくりができる環境をつくっていただきたいと思います。

最後になりましたが、貴工業会及び会員企業の皆様の発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

平成20年1月～平成20年度8月 活動軌跡

● 平成19年度 ●

- 1月 板金加工通信講座第三期開講
 1月17日 賀詞交歓会 第59回役員会
 (ウエルシティ前橋)



- 1月19日 技能検定実技〈機械板金〉(協和工業)
 2月3日 技能検定学科(職業能力開発協会)
 2月9日 技能検定実技〈機械板金〉(吉田鉄工所)
 2月15日 技能検定実技〈機械板金・NCT〉(太田治工)
 2月16日 技能検定実技〈NCT〉(協和工業)
 3月8日 現場作業者の為の実習教育
 ～第4回スポット溶接ゼミ～(中澤工業所)
 3月18日 第60回役員会(東毛産業技術センター)

● 平成20年度 ●

- 5月8日 第61回役員会(職業能力開発協会)
 5月21日 五県交流会(伊香保カントリークラブ)



5月21日 北関東地区交流会(福一)



5月29日～6月1日 Advanced Stage(朝霧スクエア)
 6月5日 第9回総会 第62回役員会

(ウエルシティ前橋)



- 6月6日～8日 中堅リーダー研修(朝霧スクエア)
 6月19日～22日 新入社員研修(朝霧スクエア)
 7月4日～6日 中堅パワーアップ〈Ⅲ〉研修
 (朝霧スクエア)
 7月18日～20日 改善テクニック活用①研修
 (朝霧スクエア)
 8月1日～3日 中堅パワーアップ〈Ⅱ〉研修
 (朝霧スクエア)
 8月22日～23日 図面検定講習会(伊勢崎市民プラザ)
 8月28日 第63回役員会(一心太助)

平成20年度予定

- 9月5日～7日 管理技能ノウハウ活用研修
 (朝霧スクエア)
 9月6日 図面検定(伊勢崎市民プラザ)
 9月12日～14日 国内研修視察(滋賀)
 9月13日 検定前学科講習会(伊勢崎市民文化会館)
 9月19日～21日 改善テクニック活用②研修
 (朝霧スクエア)
 10月 第64回役員会(会場未定)
 10月3日～5日 中堅パワーアップ〈Ⅰ〉研修
 (朝霧スクエア)
 10月11日 検定前学科講習会(伊勢崎市民文化会館)
 10月18日 安全又は衛生のための特別教育(会場未定)
 10月24日～26日 リーダー能力強化フォロー研修(朝霧スクエア)
 10月26日 第10回親睦ゴルフコンペ(赤城CC)

- 11月1日 検定前学科講習会(伊勢崎市民文化会館)
 11月7日～9日 戦略策定ノウハウ活用研修(朝霧スクエア)
 11月15日 若手社員教育〈アマダマシン見学〉
 (アマダ展示場)
 11月22日～23日 検定前実技講習会(株協和工業)
 11月28日～30日 経営幹部リーダー研修
 (朝霧スクエア)
 12月 第65回役員会(会場未定)
 12月13日 検定前学科講習会(伊勢崎市民文化会館)
 1月 板金加工通信講座第一期開講
 1月17日 工業会正副会長会(フォーラム246)
 1月17日 検定前学科講習会(伊勢崎市民文化会館)
 1月～2月 賀詞交歓会 第66回役員会(前橋)
 2月 技能検定
 2月 現場作業者の為の実習教育
 ～第5回スポット溶接ゼミ～
 3月 第67回役員会

技能検定合格者



数値制御タレットパンチプレス板金作業1級

(有)松見精工

黒澤 修

私は、会社ではAP100でCAD/CAMやレーザー加工機を扱っています。そのため、実技試験の方は普段やっていることとそんなに違いがないので自信がありました。

ただ、学科試験は出題範囲も広く。普段扱っていない材料や機械の問題もあり覚えるのに苦労しました。

私は、昨年実技試験は合格しましたが、学科試験に落ちてしまい、2回目で合格することができました。事前講習も昨年、今年と2回受講しました。今年も受講したおかげで、わからなかったところがわかるようになり、なんとか合格することができました。講習の教科書だけでは足りないところは、過去問やAi-Linkを利用して勉強をしました。Ai-Linkでは、解説なども丁寧に細かく載せてあるので、たいへん助かりました。

今回得た知識や経験を無駄にしないよう、普段の仕事に活かしていきたいと思います。また、1級技能士の資格に満足せず次回には特級を目指し頑張りたいと思います。

最後になりますが、資格取得するにあたり群馬県シートメタル工業会をはじめ関係各位のご支援に心より感謝いたします。



数値制御タレットパンチプレス板金作業2級

(株)太田治工

田村 香織

私は、今現在生産されていないAP60を使ってNCTのプログラム作成の仕事に従事しています。精度を高く加工しやすい経済的な製品を作るための、知識・技能の習得・向上をしようと、今回『数値制御タレットパンチプレス板金作業2級』を受検しました。

日常の業務で使用しているAP60とAP100とでは、慣れているプログラム作成とはいえ、操作に慣れるのには時間が掛かりました。それに加え加工には携わっておりませんでしたから、プログラム作成から実際の製品加工までという試験内容に当初は戸惑いましたが、検定前講習の際に実際に行なったことや、その後の練習により徐々に習得できましたが、それと同時に金型交換などの変えも経験することができました。

今回得られた知識・技能と合格に向かって努力するという事を、今後の業務の中で生かして行きたいと思います。

今後もスキルアップを目指し、数値制御タレットパンチプレス板金作業1級の取得、機械板金作業の1級2級

の取得と目標を持ち続け努力していきたいと思います。

今回受検の機会を与えて頂き、また合格へ向けてのご支援を頂きありがとうございました。



数値制御タレットパンチプレス板金作業2級

岡部工業(株)

大嶋 利充

私は、岡部工業で主にAP100を使用してNCTのプログラム作成をしています。

まず技能検定を受けるにあたり何が問題かを考えました。AP100は普段から使い慣れていたもので、実技のNCT操作中心に勉強しました。操作方法が分からず上司に相談すると、休日に教えてもらえることになりました。機械のことは多少なり分かっているつもりでしたが、操作してみると金型交換などが思い通りにいかず苦労しました。NCTを納得いくまで操作したかったので、加工が停止している昼休みや夜間を利用して練習しました。その結果何とか独力で動かせる様になりました。

学科試験は、過去問題中心に毎日少しずつでも勉強しました。出題範囲が広く分からない事柄も多く、図書館から本を借りたりもしました。しかし、仕事が終わってからの勉強はつらく途中で寝てしまうこともありました。仕事をしながら、勉強する大変さを感じる日々でした。

学科、実技を終えて合格発表があるまでは不安な毎日でした。合格通知が届いたとき、苦労したことが報われました。

最後になりますが機会を与えてくださいました岡部社長、そして協力してくださった関係各位、並びに群馬県シートメタル工業会の御支援に感謝致します。



数値制御タレットパンチプレス板金作業2級

(株)シンノエパック

川田 英和

私は(株)シンノエパックに勤務しております川田と申します。

会社では主にAP100を使用したCAD・CAM・NC加工及びレーザーのプログラム作成の仕事を担当として働いています。

今回、技能検定を受検するにあたり、シートメタル工業会が主催する講習会に参加しました。実技試験はいつも行っている仕事の内容と同じなので自信がありましたが、時間制限があり、試験となるとやはり緊張してしまいます。筆記試験の方は出題範囲が広く、今までNCTに関わる仕事しかしていない私には無理だと思いましたが、過去問題をやったり、資料を何度も読み返したり、インターネットのアイリンクにある板金技能検定講座に

載っている解説を見たりして勉強しました。その甲斐もあり技能検定に無事合格できてうれしく思います。

今後はこの資格を仕事に生かして頑張っていきたいとします。どうもありがとうございました。



機械板金作業 1 級

(株)林製作所

植杉 正則

私は(株)林製作所でベンダー作業を担当しております。今回5年ぶりに技能検定を受ける事になったのですが、実技の方はいつもどおりやれば大丈夫と自信はあったのですが、学科は自信がなかったのです。会社から検定前学科講習会を受講させていただき、一から勉強なおしました。板金2級の時に勉強したはずの内容なども忘れていた所が多々あり、これはまずいと思いました。それでも受講した事により自信を持つ事ができました。

また技能検定前実技講習会では、普段なにげなくやっている展開やシャーリング、ベンダー、スポットなどを基本的な事から応用編までいろいろ教えていただきました。そのおかげで無事1級に合格する事ができました。

今回合格する事ができたのも、チャンスをくださった会社やご協力いただいた社員の皆様、並びに、ご支援してくれた群馬県シートメタル工業会の皆様のお陰とっております。ありがとうございました。



機械板金作業 1 級

(有)松見精工

宮下 浩洋

私は(有)松見精工製造3課でベンダー作業をしています。板金技能検定試験を受けることとなり勉強することになりました。

実技の方は、普段からベンダーの仕事をしているので自分では、何も問題ありませんでした。その代わり学科の方は範囲が広くて苦勞しました。でもそのおかげで、今まで何気なく使っていた道具や図面などに記載されていた記号などの意味がよくわかりました。

今回このような試験を受けさせてくださった会社に感謝しています。今後はこのことを仕事に生かしてがんばりたいと思います。



機械板金作業 2 級

(有)岡島工業

岡島 弘昌

私は、現在(有)岡島工業にて、AP100での展開図作成からNCプログラムの作成、レーザー加工機でのブランク加工、プレスプレーキでの曲げ加工、と板金加工全般を業務として行なっております。

学校を卒業し、父の経営する会社へ入り、6年が経ち

ました。入社当時は、板金加工については全くといっていいほど素人同然の状態から、少しずつ加工について学び、経験し、加工機も一通りの操作や加工も行なえるようになり、今では、ようやく加工全体が見渡せるようになったのではないかな、と思えるようになりました。日々の業務にも慣れながら、加工だけではなく、受発注などの管理業務なども少しずつ増え、毎日を忙しく過ごしてしまっている状態でした。そんな中、群馬県シートメタル工業会で技能検定を行なわれているというお話があり、私自身、これまでに経験したことを今一度、再確認してみたいという思いから、今回検定にチャレンジすることとなりました。

実際の検定では、実技試験においては、毎日の作業として行なっていたこともあり、多少自信はありましたが、作業の基本の大切さについて、改めて痛感しました。また、学科試験においては、実際に使用したことのない加工機についての出題など、板金加工全般にわたる広範囲での出題であったため、正直なところ、とても合格できるとは考えてもみませんでした。結果、初めての受検ではありましたが、無事に合格することができました。合格通知を手にした時は、信じられない気持ちで一杯でした。これも数回にわたる検定前講習会や学科講習会などに参加させていただきながら、操作手順や出題の傾向など、教えていただいた内容が大変役に立ったと思います。

これからは、私自身、まだまだ板金加工について深く勉強しなくてはならないことを身をもって知りましたが、この資格を活かし、板金加工について、さらに知識・技術・経験を深め、上級を目指していきたいと思います。また、自分自身のことばかりではなく、弊社全体でのレベルアップのために、若手社員の教育のために、この技能検定を活かしていくことを考えていきたいと思っています。

最後にこの資格を取得するにあたり、この機会を与えてくださった関係各位の皆様と、全面的なご支援をいただいた群馬県シートメタル工業会に心より感謝申し上げます。



機械板金作業 2 級

島田工業(株)

飯野 隆一

私は、島田工業(株)で溶接を担当しています。今回技能検定を受検する事になり、講習を受けながらいかに自分の知識が薄いものなのかを知りました。

実技では、普段使用しない加工機械の操作や作業方法を学習する事によって、豊富な知識を得る事ができ、検定に合格する事ができました。

これからは、色々な業務で対応できるように仕事を通じて学習し、様々な場面で良い結果が出せるように頑張りたいと思います。そして今回、資格取得に協力して頂いた会社の皆様、シートメタル工業会様の御支援に感謝

致します。

ありがとうございました。



機械板金作業2級

島田工業(株)

根岸 文夫

私は、島田工業でベンダー作業を担当している根岸と申します。以前は、シャーリングも担当しておりました。今回、いきなり課長から「頑張れよ」の一言。意味もわからずにいると後日、課長から技能検定受検の話がありました。何をやるのかも分からずに、とりあえずやってみようと思いました。

島田工業からは、2名で参加しました。学科講習会に参加して出題範囲の多さに驚いてしまいました。講習会で教えてもらい覚えつつもりでも1週間もすればすっかり忘れていました。一緒に参加した主任と「学科は無理でも実技だけは合格しよう」と密かに相談して実技の練習を仕事が終わってから毎日練習しました。練習では、30分位で作業を終える事が出来ていました。当日、1番の心配事は緊張でした。「あせらず、ゆっくり」を心がけて展開計算も3回見直しました。おかげで納得のいく製品が出来ました。

発表の日、HPに自分達の受検番号が出ていましたが、信じられず、合格通知が届いても信じられず賞状を手にして始めて合格したという気持ちになりました。

これからも技能士として技術の向上や、知識を他の作業者の見本となれるように頑張りたいと思います。

最後に、この機会を与えてくださった島田工業(株)の皆様、一緒に頑張った飯野主任、群馬県シートメタル工業会に心より感謝いたします。どうもありがとうございました。



機械板金作業2級

(有)松見精工

米山 紀之

私は(有)松見精工でベンダー作業をしています米山と申します。

技能検定を受検する事になり、群馬県シートメタル工業会の学科講習に参加しました。学科試験で聞く言葉は、初めて聞く言葉ばかりで難しかったけど大変勉強になりました。学科試験は範囲が広く、テキストは全部覚えられないと思い、今までの過去の試験問題を重点的に繰り返し勉強しました。この時に、問題文を間違わないように読む事が大切だと思いました。

実技試験に関しては、仕事の終わった後に落ち着いてミスのないようにと心掛けて練習をしました。試験の前日になると、試験の会場を練習のために開放してくれるとの事で、伺わせてもらいました。この時に初めてHDSというベンダーを使ったため違和感ばかりが残り

ましたが、会社の先輩に練習に付き合ってもらい万全の状態で試験に臨む事が出来ました。これらの練習があってこそ合格だと思うので本当に嬉しく思います。

これからはこの検定を受けて学んだ事や経験を生かして、仕事に励んでいきたいと思います。

最後になりますが、今回の資格取得に協力して下さった皆様及び群馬県シートメタル工業会に心より感謝致します。



機械板金作業2級

(株)三波メタルワークス

赤沼 洋和

私は(株)三波メタルワークスでレーザー、NCTのプログラム、加工を担当しております。

入社して10年経ちますが、技能検定の事をよく知らなくて、社長から受検してみないかと打診された時は、軽い気持ちで返事をしました。

ところが、検定前学科講習会が始まり、出題の範囲が広く、板金以外の問題も出題されている事がわかり、真剣に取り組まなければ合格できないと実感しました。自信があった板金加工分野でも、講習を受けてわかった事や、今まで間違っていた事もあり、例え試験に合格しなくても自分にとってはプラスになりました。

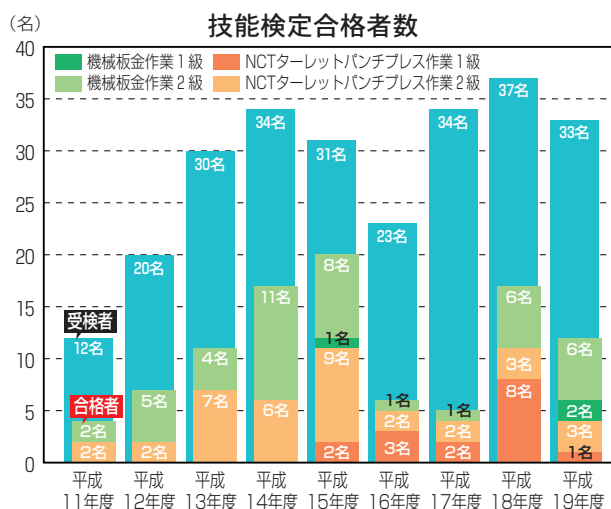
実技講習は、基本に忠実な作業方法を指導して頂き、今まで見よう見真似で覚えていた自分が恥ずかしくなりました。それから、自分で納得がいくまで何度も練習して、安全に正確に作業を行う事の大切さがわかってきました。これからもチャレンジ精神を忘れずに、後に続く後輩達の手本となれる様に努力していきたいです。

最後に、この機会を与えてくれた弊社と協力してくれた仲間、指導してくれた群馬県シートメタル工業会に感謝致します。

機械板金作業2級

(株)協和工業

塩谷 圭太



スポットゼミに参加して



(株)富岡富士製作所

常務取締役 藤井 義久

今回でスポットゼミの参加は、2回目になります。製造部長の立場から直接、スポット溶接作業に携わることは少ないが、一緒に参加した職長と共に日常行っている「経験からスポット溶接」にプラスになるのではないかと考えての私の参加です。私自身、製造部長の立場からスポット溶接作業指導を行います。自分自身の技量として、先輩や書籍から、聞きかじりの経験が主です。

前回の前橋で開催されたゼミで自分自身に身についた

事柄は溶接機の電源の違いにより変わる板金材質の相性があること、この事柄から推奨するスポット溶接機のことと、スポット溶接の一般的な座学でした。今回、高崎で開催の座学で、抵抗溶接の原理はもとより、各項での説明内容の充実さと、「作業者の注意事項」の現場で使える「あっそうか」という説明・解説があり、今回の座学は、充実している内容と感じました。

板金加工は、なかなかまとまった加工技術情報が少なく感じています。このようなスポット溶接ゼミなどの機会に今後も、参加したいと考えています。また、他の板金加工技術のゼミも参加したいと思います。



追悼

須田亮伸副会長を偲んで

4月25日、突然の訃報に耳を疑った。ゴルフの後、急激な痛みにおそわれ、緊急入院後、3週間、手厚い治療の甲斐もなく、お亡くなりになったという事である。あんなにも、お元気でいつも明るく私達に「経営は生き物だ。今、良くて将来どうなるか判からない。だから、今を一生懸命生きる事だ。そうしたら、必ず、問題点は見え、解決策は見い出せるものだ」と力強く語ってくれていた。一昨年は、北海道へ、昨年は九州へ一緒に旅をさせてもらった。熊本の菊地温泉のドンチャン騒ぎの時は、子どもの様な笑顔で、「六本木、楽しい、楽しい、最高!」とみんなでハシャいていた。翌日の観光では、どこへ行っても積極的に見学し、好奇心を持って説明を食いつくす様に聞いていた。物づくり名人の真骨頂ゆえんの一面であった。昼食の馬刺に舌つつみを打ちながら、「イヤー最高の味、こんな馬刺は初めて食べた」。いつでも、どこでも、須田氏の言葉には、まわりの人を明るく楽しく、元気にする、不

思議なパワーがあった。だからだろう、アリギスのスタッフは皆、礼儀マナーも立派で明るい社員ばかりだ。他社に先駆けて、生産管理システムに投資をし、多品種少量生産を構築した経営手腕は、経営体質を万全なものにしてきて、今日の隆盛を誇っている。また、工場の屋根に芝生を植え、フットサルの公式競技場として活用するという、地域スポーツによる地域貢献活動は、大企業でもマネのできない素晴らしいものである。今年は滋賀にまた、2泊3日で視察と観光に行く約束をしていたが、残念ながら、須田氏のいない淋しい旅となりそうだ。せっかくシートメタル工業会も、ここ2・3年、若手の参加も増え須田氏の経営哲学や生き様などを学ばせようと考えていただけに本当に残念である。アリギスは既に、ご子息の耕司氏へバトンタッチが済んでおり、アリギスの経営体制は万全である。あまりにも、完璧であった為に、一足先に、天国へ召されたのだと思うが、シートメタル工業会の若手社長に須田氏の素晴らしさを体験させられなかったのが、かえすがえすも残念でならない。今後は高い所から私達業界の行く末を見守りながら、光をさしてください。偉大な経営者須田亮伸氏のご逝去にあたり、心より哀悼の意を表します。

(株)グンゴー 代表取締役 六本木信幸)

会員紹介



(株)吉田鉄工所

代表取締役 吉田 勝彦

群馬県シートメタル工業会の会員の皆様には大変お世話になっております、(株)吉田鉄工所の吉田でございます。

依頼がございましたので弊社の紹介とご挨拶を申し上げます。

弊社は昭和20年に創業し自動車部品を製造している機械事業部、エレベータ製品を製造している機工事業部、鉄骨加工をしている鉄構事業部、総合建設の建設事業部、更に開発、通信事業を営んでおります。シートメタル工業会と会員の皆様より長年にわたりご指導、ご鞭撻を頂

き紙面をお借りして御礼申し上げます。

機工事業部ではエレベータ部品の加工を主に厚物や薄物が製作できる設備を(株)アマダ様より導入し、ハード面、ソフト面の充実を図っておるところでございます。最近ではDr.ABEを導入してレーザー加工機の効率アップを進めております。中でも歩留まり率の向上には特に力を注いでおります。(株)アマダ様のご協力もあり徐々に効果が出てきております。20年度の目標は共通線切断を主にコスト低減のために歩留率10%アップに挑戦しています。

次にもうひとつ力を入れていることがあります。それは日ごろからの社員教育です。数年前から教育の重要性を再認識してシートメタル工業会様の主催する、各種勉強会に参加させていただいております。昨年は板金技能士の合格、朝霧スクエアのパワーアップ研修、リーダー研修等に参加し社員のレベルアップを図りました。今年は新入社員教育、改善テクニック、管理技術ノウハウ活

用の研修に参加させる予定です。「企業は人なり」の格言通り人材育成にこれからも力を注ぎたいと考えています。

更に安全についても取り組みを強化しています。KYT活動（危険予知トレーニング）を主に安全意識の向上に努めております。最近、色々な業界でリスクアセスメントの考えが徐々に広がり始めました。弊社では今年度の安全活動方針の中にこの考えを導入いたしました。具体的には作業の中の危険因子を探してその度合いを評価してもっとも危険と思われるものから取り除く対策を立てて実施することです。現在、行っているKYT活動と共にゼロ災に向けて、かけがえのない社員が安心して作業が出来るように努力していきたいと思ひます。

最後に群馬県シートメタル工業会様の今後の発展と会員皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げまして挨拶いたします。ありがとうございました。



(株)渡辺製作所

代表取締役 木村 功

弊社は、昭和35年より富士重工の下請けとして先代社長である渡辺品吉が設立した会社であります。昭和41年に株式会社に改組したのと同時に富士重工の下請けをやめ、配電盤の板金製作及び産業機械のカバーをメインに多種少量で短納期の加工を長年にわたり営んでまいりました。

私は、昭和63年に父である専務の急逝により、バトンタッチとなりました。先代の社長は既に現役を離れ実質的に専務の父が全てを切り盛りしていました。

当時、私は東京で外資系の航空会社に勤務しており全く畑違いの業界からの入社になりました。現場をメインに夕方より見積もりや経営に関わる作業をする毎日でありました。当時はバブルの真っ只中であり、多少いい加減でも何とかなってしまう時代だったのが、幸運だったと思います。

しかし、良い時代は長く続かず、平成2年に社長に就任、第二工場と設備を増設したと同時にバブル崩壊を経験し、当時の配電盤中心の顧客から、医療機器関連や半導体関連・印刷機関連・住宅関連と次々に業界を広げて何とか生き残ってこられました。これといった営業活動もしないでも、顧客が増えたことは幸運だったということと多種少量・短納期に対応出来たこと、周りの人達に助けられたお陰と感謝しております。平成7年より太陽熱住宅（住宅関連）の板金及びユニット組立てを受注し、完成品としての出荷を始め現在も続いております。平成14年にはISO9001の認証を取得しました。当時小さな会社で専任も置かず取得するのは無理と言われましたが、何とか自力で取得できました。技能検定にも挑戦し、私が、機械板金作業1級・取締役2名が2級を取得しました。平成17年には、業務用空気清浄機の製造販売を始め、順調に販売を続けております。最近では、業務用清浄機の関係から、外国よりネイル向け集塵機の輸入販売も始め、また、制御盤の配線を中国で進料加工して社内ではアッセンブリーして納品する計画もしております。思わぬところで、以前の経験が生かせるものだと思っております。

今後も、厳しい状況が続くと思ひますが、社員共々皆様からの信頼にこたえ、邁進してまいりたいと思ひます。

すのでご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。



イーケーエレベータ(株)

代表取締役 海老沼孝之

私どもイーケーエレベータ(株)を紹介させていただきます。

弊社は昭和39年に前社長、海老沼博により創業いたしました。完全オーダーメイドで昇降機を開発設計し、製造販売、保守管理に至るまで、一貫した業務を展開しております。食堂の調理場、学校の給食配膳などに使われる小荷物専用昇降機から大型荷物用、自動車用のエレベーターなどと時代の要望に応じて製品を生み出してまいりました。エレベーター関連業務の企業は数多いですが、当社のように一貫したエレベーター製造会社は少なく、全国の各企業から依頼によるOEM供給もおこなっており、国内各地に設置、販売実績を誇っております。当然、販売だけではなく、その後のアフターケアをしっかりとる為のサービス網も全国ネットで展開しており、点検・定期検査を入念に実施し、お客様の信頼を得ています。

大手メーカーは乗用エレベーターなど量産品が主力となりますが、運ぶ物の大きさや形状、設置場所の状況に合わせて一つずつ設計しなければならない荷物用エレベーターなどは、逆に言うところ不得意となります。当社は、その分野において、利用目的に応じた製品開発して、お客様との距離を縮め、大手メーカーとの差別化を図っています。

私自身、創業者の父親が会長となり、その跡を受けて社長に就任したのが、平成15年になります。親から受け継いだ仕組みを見直しながら会社を伸ばすことを考えて、その中でも特に人を育てることを重要として、就任当時より人材育成には力を注いでまいりました。そして、その心強い味方でもある技術者達が通う、高崎市の箕郷町を本社工場として、「ものづくり」の良さと力強さを全国に発信しています。ものづくりの原点である工場内には、エレベーターを制御する電装品や、意匠部などのプレス加工を中心の板金製品、強度を要する部分に使用する製缶製品を製作する工程、そしてそれを組立てる工程にて工場を稼働させています。

冒頭でも述べましたように、当社エレベーターは完全オーダーメイドである故、設備機器に全てを委ねる訳にもいきません。だからこそ「人」の力が必要であり、その活躍の場である「現場」を中心とした会社作りが重要となります。5Sを浸透させ人材を育成していくことが利益を生み続ける源であると確信いたします。

原材料の高騰、価格競争の激化、社会に対する安全責務、技術の伝承など私達を取り巻く環境は、日々目まぐるしく変化しています。どんな局面においても、自身の根底にあるものは「現場」であり「ものづくり」であり、そこに立ち考えることで、この時代を生き抜くことが出来ると思ひます。

役員の皆様、会員の皆様方とより多くの情報を交換等させていただき、群馬県の産業を共に活性化させていきたいと考えていますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

What are you interested in?

ルアーフィッシング

(有)小花製作所
代表取締役

小花 弘樹

午前4時、まだ薄暗いうちに起き、友人と待ち合わせ車を走らせる。

向かう先は長野県にある野尻湖。日本では有数のスモールマウスバス（ブラックバス的一种）を釣る事のできるフィールドだ。スモールに嵌りもう10年近くここに通っている。

バスフィッシングの魅力は、季節や湖沼の状況、天候によって生息場所を頻繁に変えるバスの特性を考えて、こちらからターゲットのブラックバスに働きかけるスポーツ性とゲーム性の高さだ。湖沼の状況判断、バスの生態を理解したうえでの行動予測、更にベイト（バスの餌となる小魚や甲殻類）の生態把握、適切なルアーやリグ（仕掛け）選び、戦略に沿った正確なロッド（さお）操作など、1匹のバスを釣るための選択肢は無限にあり、こうしたゲーム性の高い試行錯誤の過程に魅了される。朝の弱かった私を早起き人間に変えてしまった程の魅力がそこにある。

バス以外にも色々な釣りをするが、毎回心待ちにしているイベント的な釣行がある。

それはGTフィッシングだ。シーバス（スズキ）釣りを通じて知り合った人から誘われ、ここ数年来、年2回ほど奄美大島やトカラ列島まで遙々遠征している。ちなみに



にGTとはGIANT・TREVALLY（日本名 ロウニンアジ）の事（アジの化け物みたいな感じです）。キャストイング（ルアーを投げて釣る事）の釣りではこれ

以上のターゲットはいないと言えるくらいの、まさにルアーフィッシングの最高峰だ。世界記録として70kgを超える物まで釣られている。ちなみに今まで釣った私の最大魚は24kgですが…。



それでもルアーを喰った後の引きは強烈で、まるで原付バイクに思い切り引っ張られているような（例え話ですよ…本当に引っ張られた事はありません）まさに魚との格闘といったとこだ。強烈な引きに耐え抜き、海に引きずり込まれそうになるほどのパワーを征してやっとの思いでGTを手にした時は船上が歓喜に包まれる。釣り上げた人だけじゃなく同行者全員で感動と喜びを分かち合う最高の瞬間だ。

釣りに行くと自然の豊かさに喧騒を忘れストレスから開放される。日頃通っている野尻湖や福島にある松原湖は季節ごとのすばらしい景観を見る事が出来るし、奄美やトカラの海を初めて見る者はその美しさに感動するほどだ。特にトカラ列島はほとんどが島民数100人未満の島からなり、釣りかダイビングでもしていない限りまず普通は行く事の無いまさに秘境。大げさな事を言うつもりはないが、その大自然の中で遊ばせてもらう事で環境についても若干ではあるが意識を持つようになった。逆に言えば釣りをしていなかったら環境問題なんて単なる他人事だったと思う。

以前は飲みに行く事だけがストレス発散の場だった自分の生活と仕事に潤いと張りを持たせてくれて意識までも変えるほどの趣味を持てた事を幸せに思う。

ただ釣りに行った後は釣り仲間とそのまま飲みに行ってしまうので、以前より飲みに行く回数が増えたのも事実だが…。

編集後記

便利が一番？

もうインターネットが当たり前の社会。Eメールを見なければ仕事になりません。確かに便利です。特にここ数年、中国・日本と半々の生活を送っている私などにとっては、そうした中で仕事をしているとEメールのありがたさを感じます。しかし会社の中でパソコンにぶら下がりEメールの処理をする事だけが仕事のようになっている人達もいるような気がします。確かに私も、私にCCで送られるメールまで全て熟読し対応したら一日中パソコンに向かいっぱなしになってしまう事でしょう。そのくらい（一方的に勝手に）情報が送られてきてしまいます。自分から情報を発信しないで受信した情報の処理だけでもうくたくたになってしまいます。何か滑稽ささえ感じます。ついこの間まではEメールなんか、なくっても仕事をしていたのに、もはやEメールなしでは仕事もできなくなってしまいました

た。考えてみますと身の回りには知らず知らずになくはならない存在になっているものがたくさんあります。インターネットだけでなく他ににもたくさんあります。携帯電話、車搭載のナビゲーションもそうです。もし朝、家に携帯を忘れて会社に行ったら、出張に携帯を持たずに出掛けたら、もう大変です。気が気ではありません。最近では電話番号を記憶しようとする気も全くなくなりました。ナビもそうです。どこに行くのもナビでセットして行くようになってしまいました。道を覚えようとする気が完全なくなりました。道具の便利さに頼って頭を使うことが減ってしまいました。そういった事は道具を利用して、人間は肝心な事に頭を使えば良い。そういう意見もあるでしょう。しかし本当にそうでしょうか。私はそうではない気がして堪りません。昔、私は祖父に「人間、頭と何かは使わなければ退化する。使えば使うほど光り輝く」とよく聴かされました。しかし、そんな事を言っても、もはや、携帯電話・ナビ・インターネットなしでは暮らせない自分になってしまっているのです。（岡部 浩章）